

第1回松山市観光振興計画策定会議

■日時・場所

日時： 令和8年7月30日（木）10時00分～12時00分

場所： KHプレイスビル3-1

■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

■議事内容

1. 開会
2. あいさつ（松山市）
3. 委員紹介・資料確認、進行役選出（愛媛大学井口教授）

4. 資料①説明

計画の目的・コンセプト（松山市）

- 松山市の観光振興計画は、2027年から2031年までの5年間を対象とし、第7次総合計画の分野別計画として、観光振興の方向性を明確にし、戦略的で効果的な施策を推進するために策定する。
- コンセプトは「5年後、10年後に松山の観光が目指すべき姿」「広域周遊の取組の継承・発展」「観光事業者や市民と一緒に推進」「分かりやすく、伝わりやすい」「国や県の計画、松山観光コンベンション協会の戦略との整合」。
- DXの推進や受入環境の整備、市民生活との調和など、持続可能な観光に向けて、基本方針や重点施策を体系的に整理する。

計画の構成・政策における視点等（事務局）

- 計画の構成案(章立て)と、策定における視点について説明

質疑・応答意見聴取

- ターゲットの絞り込み方法、中間目標の設定等をよく考える必要がある。
- ワークショップでは、大学生や若い方などにも参加頂き、意見を十分に計画に反映させてほしい。
- DXの推進は、観光だけではなく、都市OSなどとの連携も必要ではないか。
- 過去議論を重ねてきたことが本計画に盛り込まれると考えるが、何のための観光なのか、松山市の観光の位置づけについてしっかり考える必要がある。

5. 資料②説明（事務局）

現状分析・課題

- 道後温泉・松山城が観光の中心で、認知度や満足度は高いが、資源の認知やイメージに広がりがない。
- 入込数、宿泊数、消費額ともに急増している外国人旅行者が全体を押し上げている。
- 来訪者調査の結果（松山市での行動、満足度評価、推奨意向、再来訪意向等）について概要を報告。
- ターゲット市場調査の結果(松山市の認知・イメージ、非来訪理由、資源の説明・ビジュアルを提示しての来訪意向等)について概要を説明。
- 認知・イメージ、実際の来訪経験等からも、道後温泉周辺エリア、松山城が中心となっており、市内の多様な資源が生かしきれていないのが現状。面としての松山の魅力を伝えることのできる、コンテンツづく

り、プロモーションの検討が必要

意見交換・要望

- ・ 5年の計画の規模感（二次交通や交流といった課題、瀬戸内海のハブや広島連携構想といった松山市の位置付け、松山市の価値など）はどのようなものなのか。非常にタイトな中で計画を策定するため、プロモーション事業などが中心の計画になってしまうことを懸念している。
- ・ 松山市との役割分担、行政としてのステータスの確立が必要になってくる。
- ・ 過去の施策や提言がどのようなものだったのかを整理する必要がある。
- ・ 来訪者の移動手段の把握も重要である。
- ・ 広域周遊は観光計画のどの部分に入るのか整理が必要である。
- ・ アクセスに関する調査結果から観光促進、交流人口の拡大の面から公共交通、二次交通が重要だと改めて感じた。
- ・ インバウンドは多くなっているものの、国際情勢など観光危機・リスクにどう備えるかなども入れたほうがよいのではないかと。インバウンドの調査も必要である。
- ・ 観光消費額は宿泊しないと伸びない。愛媛県全体で広域連携をしていく必要がある。
- ・ 「市民が誇りをもって紹介できる街」になってほしい。松山市民が自分たちの街が好きで、楽しめることが大事だと考える。
- ・ 基礎となる観光振興の原点を考え、「私たちがどうあるべきか」を先に整理する必要がある。
- ・ どのような理念をもって計画を策定するかは KPI を設定する際にも重要になるため、理念が共有された上で会議で考えていく必要がある。
- ・ 高齢者、子ども、障がい者の皆様の意見も反映させる必要がある。
- ・ ある携帯会社は現在全国のアーケードに出店しているが、昭和の建築物はこれからも建築されないのにインバウンドに人気があり、必ず見に来るため、それを見越して出店している。

6. 今後の予定

- ・ 事務局より説明。

■会議風景

